

令和3年第13回教育委員会会議

1 日 時

令和3年9月10日(金)

開会 15時30分

閉会 15時46分

2 場 所

県庁行政庁舎 11階 1109会議室

3 出席者

徳田博教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

飯田重則教育次長、杉中達夫教育次長、塩田憲司教育次長、松田豊久教育次長兼庶務課長、江尻祐子教育次長兼学校指導課長、岡橋勇侍教職員課長、清水茂生涯学習課長、山下幸則文化財課長、居村吉記保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第30号 令和4年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について（原案可決）

議案第31号 募集定員に関する規則の一部改正について（原案可決）

6 報告事項

報告第1号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

報告第2号 令和3年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

徳田教育長が開会を告げる。

・質疑要旨

以下のとおり。

議案第 30 号 令和 4 年度石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

1 の提案理由は、令和 4 年度における石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員を定める必要があるためでございます。

2 の根拠法令については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第 21 条」でございます。

3 の内容につきましては、2～4 ページに示してございます。では、2 ページの左側をご覧ください。

1 の「全日制高等学校」についてであります。(1)の「募集定員の基本的な考え方」については、記載のとおりであります。募集定員を策定する際の基礎となる来年 3 月の中学校卒業者数は、(2)にありますとおり、県全体では 247 人増の 10,098 人あります。地区別では、県南地区は 83 人増の 2,183 人、県央地区は 236 人増の 6,615 人、県北地区は 72 人減の 1,300 人あります。これら地区別の中学校卒業者数及び私学への入学者などを総合的に勘案し、(3)に記載のとおり、県南地区については 1 学級増やすこととし、県央地区については 3 学級増やすこととし、県北地区については増減なしの本年度と同じとし、県全体では、(2)の下段にありますとおり、来年度の募集定員は、今年度の 7,360 人から 160 人増の 7,520 人に、学級数では、今年度の 185 学級から 4 学級増の 189 学級となります。

地区別の状況についてご説明いたします。まず、県南地区であります。中学校卒業者が 83 人増加する見込みであり、私立学校等への入学者がいることなどを考慮して 1 学級増とし、小松明峰を 1 学級増といたします。小松明峰高校については、県南地区の中学校卒業予定者は小松市を中心に増加することや本年度の志願倍率などをふまえ、平成 30 年度に減じた 1 学級を戻し 1 学級増とし、7 学級とします。

また、県央地区は、中学校卒業者が 236 人増加する見込みであり、私立学校等への入学者がいることを考慮して 3 学級増とし、野々市明倫、金沢西、金沢北陵の 3 校をそれぞれ 1 学級増といたします。野々市明倫高校については、これまで同校の受験者の多い野々市市及び金沢市南部の中学校卒業予定者が増加する見込みであることや、本年度の志願倍率などを考慮し、令和 3 年度入試で減じた 1 学級を戻すこととし、1 学級増とし、7 学級とします。金沢西高校については、これまで同校の受験者の多い金沢市北西部の中学校卒業予定者が増加する見込みであることや、本年度の志願倍率などを考慮し、令和 2 年度入試で減じた 1 学級を戻すこととし、1 学級増とし、8 学級とします。金沢北陵高校については、これまで同校の受験者の多い金沢市北部及び河北郡市の中学校卒業予定者が増加する見込みであることなどから、本年度減じた 1 学級を戻すこととし、1 学級増とし、5 学級とします。

県北地区は、中学校卒業予定者が 72 人減少する見込みであります。羽咋郡市・七尾鹿島地区、穴水・輪島地区、能登・珠洲地区のそれら 3 つの地区ごとの中学校卒業予定者の増減や、私立学校等への入学者がいることなどを考慮し、学級数は増減なしとし、本年度と同じにします。以上が、各地区の募集定員及び学級数の増減の内容とその理由であります。

次に右ページをご覧ください。2 の「定時制高等学校」、3 の「通信制高等学校」につきましては、それぞれ本年度と同じ募集定員といたします。4 の「特別支援学校」

につきましては、入学希望者の実態を勘案し、入学希望者全員を受け入れることが出来るように334人プラス若干名の募集定員といたします。5の「県立金沢錦丘中学校」につきましては、令和3年度と同じ募集定員といたします。

3ページの資料には、学校別の、募集学級数と募集定員をまとめてありますので、ご覧いただきたいと思います。また、4ページには参考資料として、6月に報告いたしました各高等学校の推薦枠を基に推薦入学の募集人数をまとめてございます。

【質疑】

質疑無し

(徳田教育長)

採決を行う。

(各委員)

異議なし

議案第 31 号 募集定員に係る規則の一部改正について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

提案理由であります。 (1)令和 4 年度における第 1 学年募集定員の決定により、高等学校の募集生徒数を変更する必要があること及び(2)令和 4 年度における第 1 学年募集定員の決定により、特別支援学校の募集幼児・生徒数を変更する必要があるためでございます。根拠法令につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 33 条であります。

改正案につきましては、9 ページから 15 ページにお示ししてございますが、説明につきましては、6 ページからの新旧対照表をご覧ください。表の右側が現行で、左側が改正案でございます。なお、太枠で囲ったところが変更箇所でございます。高等学校については 7 ページまでです。次に、8 ページの「石川県立特別支援学校規則」の新旧対照表をご覧ください。特別支援学校については、義務教育である小学部・中学部を除き、先程お諮りいたしました募集定員に基づき、募集幼児・生徒数を変更いたします。変更となった部分を、太線で囲んでありますので、ご覧ください。以上が改正点でございます。

【質疑】

質疑無し

(徳田教育長)

採決を行う。

(各委員)

異議なし

報告第1号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

全国学力・学習状況調査ですが、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し実施しておりません。そのため、2年ぶりの調査となります。

1ページをご覧ください。はじめに、「Ⅰ 調査の概要」についてです。1の「調査の目的」につきましては、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、教育に関する継続的な検証改善のサイクルを確立することが、主な目的であります。

2の「調査の対象」につきましては、小学校、義務教育学校及び特別支援学校小学部の第6学年、中学校、義務教育学校及び特別支援学校中学部の第3学年です。なお、今年度調査につきましては悉皆調査で行われました。

3の「調査実施日」につきましては、本年5月27日に、実施しております。

4の「調査の内容」につきましては、小学校6年を対象に、国語と算数、中学校3年を対象に、国語、数学に関する調査と、学習習慣や生活習慣等に関する質問紙調査が実施されました。教科に関する調査につきましては、平成30年度までは、A問題「知識」とB問題「活用」を分けて調査しておりましたが、令和元年度より知識と活用を一体的に問う調査問題となりました。

5の「調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数」につきましては、記載のとおりです。次に、2ページの「Ⅱ 調査の結果」をご覧ください。まず、1の「教科に関する調査の結果」についてであります。文部科学省は、平成29年度から、全国平均正答率は、小数点以下第1位まで、都道府県の平均正答率については、整数値で公表することとしています。例えば、小学校6年の国語において本県は71、全国は64.7となっております。資料にありますように、小学校6年、中学校3年の、国語、算数・数学、いずれにおいても、全国平均を大きく上回る結果となりました。なお、今回の結果としては、報道されておりますように、小学校6年の平均正答率は、国語、算数ともに同着の全国1位、中学校3年では、国語、数学ともに単独の全国1位でした。このことについては、平成14年度から県独自の基礎学力調査もあわせて実施してきたことや、平成21年度から金沢大学と連携して本全国調査の結果を分析し、市町教育委員会や各学校と連携して授業改善に生かしてきたこと、そして何よりも、学校現場の教員の皆さんや子ども達の日頃の努力が実を結んだものと考えております。

次に、3ページをご覧ください。この後、説明いたします質問紙調査の項目について、記載しております。4ページをご覧ください。「2 質問紙調査の結果」につきまして、主な結果を説明いたします。(1)と(2)は、いずれも国語に関する質問で、(1)は「授業の内容はよく分かるか」、(2)は「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしているか」という質問です。いずれも、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」をあわせて肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国より高い数値となっております。

次に、5ページをご覧ください。(3)と(4)は、いずれも算数に関する質問で、(3)は「授業の内容はよく分かるか」、(4)は「授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」という質問です。いずれも、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国より高い数値となっております。

次に、6ページをご覧ください。「学習習慣等」についてであります。(5)の「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」について、「よくしている」と「ときどきしている」をあわせて肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中どちらも、全国より高い数値となっております。次に、「生活習慣等」についてであります。(6)の「朝食を毎日食べているか」について、「している」と「どちらかといえばしている」をあわせて肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6では、全国と同程度、中3では、全国より高い数値となっております。

次に、7ページをご覧ください。「新型コロナウイルス感染症の影響に関わる項目」についてであります。(7)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」について、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」をあわせて回答した児童生徒の割合は、小6では、全国より高く、中3では、全国と同程度の数値となっております。一方、(8)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」、8ページにあります、(9)「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」については、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」をあわせて肯定的な回答した児童生徒の割合は、全国より高い数値となっております。本県の児童生徒は、不安を抱える休校期間中であっても、熱心に学習に取り組んでいたことが質問紙調査の結果にも表れており、本県の高い学力の水準を維持できている一つの要因であると考えています。

最後に、学校質問紙調査についてであります。9ページと10ページに4つの質問項目があります。特に、9ページの(11)をご覧ください。これが、本県の大きな特徴の1つですが、「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用したか」について、「よく行った」と「行った」をあわせて肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では、98.5ポイント、中学校では、96.5ポイントで、ともに全国より高く、「よく行った」との積極的な回答の割合は、全国平均より小学校で26.7ポイント、中学校で8.8ポイント、上回り、各学校において、学力調査結果等を活用した学力向上・指導力向上への意識が高いという結果が出ています。

以上、今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、ご説明いたしました。今後しっかりと結果を分析し、まずは県全体の状況を取りまとめた「結果の概要」を作成し、今後の教育活動にしっかりと活かせるよう10月中旬を目途に、市町教委や各学校等に配付したいと考えており、また、金沢大学と連携して結果をさらに詳細に分析し、成果・課題等を洗い出すとともに、各学校で柔軟に活用できるように、2月ごろには、効果的な取組事例等を教員専用のWebページに掲載し、今後の授業改善にしっかりと活かしていきたいと考えております。

(徳田教育長)

この結果はこれまでの関係者の努力の積み重ねだと思っております。また、金沢大学さんとの間で、どこが弱いのかの分析を毎年やってきて、もう10年以上そういった積み重ねをしています。おそらく他の県もそれぞれいろんな取組を行っていると思いますが、石川県の場合は、金沢大学の関係者ときちっとタッグを組んでやってきたというのが、こういう結果の大きなバックボーンになっていると思います。

【質疑】

(新屋委員)

二つ質問します。質問紙調査の4ページの(2)の質問項目ですが、令和3年度に内容が一部変更されたと書いてありますけれど、どのような変更だったのでしょうか。

また、もう1点ですが、7ページの(8)の、新型コロナウイルスに関する質問で、小学校でよく当てはまるが約3割、当てはまるが約3割に対して、中学校が半分にも満たない状況で、あまり計画的に出来ていないということなのだろうと思います。なぜ、中学校ではこういうことになるのかということ、理由に心当たりがあれば教えていただきたいです。同じように次のページの、(9)でも、やはり小学校に比べて、中学校の生徒さんの方が、規則正しい生活を送った割合が少なくなっている理由についても分かれば教えていただければと思います。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

質問項目については、それほど大きく変わった訳ではなく、後半に「書く」という部分がついていましたが、それが無くなって、「必要に応じて質問する」と変わりました。質問の中身としてはそれほど大きな変更ではありません。

(杉中教育次長)

小学校と中学校の違いについては、全国も同じような結果になっていますが、小学校の方が中学校に比べて、よりきめ細かなプリントを用意され、どのような過ごし方をすればよいかということ、学校現場からそれぞれ保護者等を通じて、子供たちへ適切に指導されたのではないかと思います。

一方で、中学校は本人の自主性に任せた部分があったために、その結果、このようになったのではないかと、私を感じる部分でありまして、これらも含めて少しまた分析をさせていただきたいと思います。

(新家委員)

子供たちが良い成績を収めているので、現場の先生方、そしていろんな関係者の方々の努力が結びついているのかと思います。先生方には感謝を申し上げたいと思います。

お願いなのですが、これからまた詳細な分析をされるということで、4ページ以下のところでは、本県と全国の比較をされていますが、本県の暦年での顕著な変化を、もし分析されるようであれば、どこかの機会で教えていただければと思います。

(杉中教育次長)

確かにこの資料ですと、同一質問に対する回答については一昨年度の部分は書いてあるのですが、委員がおっしゃるように数年間でどのように変わってきているかについては比較することができませんので、そういった分析等も試みて、減少傾向にある或いは増加傾向にある、或いはこの年に大きく変わったなど、そういったところも注目する視点として考えていきます。

(高野委員)

今回の学力調査は、コロナ禍で初めて行われました。去年の休校であったり、いろんな学習方法の変更を余儀なくされたりして、もし、学力がすごく下がっていたらどうしようかという不安が少しあったのですが、今回の結果では全国で一位という、思ってもみない素晴らしい結果で、学校現場であったり、先生方の指導方法の工夫であったり、努力であったりが、コロナに関係なく出てきたことに対して、とても素晴らしい、うれしいと感じました。

今後、GIGAスクール構想など、ICTを使った新しい教育の流れに上手く乗って、更なる学力向上をお願いしたいです。

(眞鍋委員)

私も素晴らしい結果だと思っており、数年来の先生方のご努力の賜物だと思いますけれども、あまりプレッシャーを感じずに、淡々とやるべきことをやっていただければいいのかなと思いました。

それから、先ほどの小学校と中学校の生徒さんのデータの違いですけど、学校がないときに、その生徒さんがどこで過ごしていたのかを確認していただくと良いと思います。おそらく、小学校6年生でも、今は放課後児童クラブに通えるはずですので、日中そういったところにおいて、宿題や勉強をする環境が整っている人の目があるところで過ごしていたなど、そういった事情があるように思いますので、生徒さんたちが、どこで過ごしていたのか、誰と過ごしていたのかということも、少し分析に加えていただければと思います。

(徳田教育長)

今後のスケジュールについても補足してください。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

結果の概要についてですが、冊子を作って配付することについては、例年より1ヶ月遅れになります。ただし、実践事例や好事例を挙げることは2月を予定していて、これは例年と変わりません。

概要は1ヶ月遅れですけど、詳細な分析については、例年通り、来年の2月末までに仕上げるというスケジュールです。

報告第2号 令和3年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について（居村保健体育課長説明）

最初に、1「全国高等学校総合体育大会」につきましては、北信越5県及び和歌山県において、7月24日から8月24日までの期間で開催されました。本県では、バレーボール、ソフトテニス、剣道、なぎなたの4競技が、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて開催され、高体連の関係者の皆様には、大会運営に大変なご尽力をいただき、また各学校においては、教職員や生徒の補助員の派遣についてご配慮いただき、おかげさまで無事に終えることができました。なお、本大会には、本県より29競技に選手547名が出場しました。団体では、少林寺拳法 男子団体演武で、小松工業高校が優勝、また、相撲団体で、金沢学院大学附属高校が準優勝しております。個人では、少林寺拳法男子組演武で、小松工業高校の日光・土本組、ウエイトリフティングの女子49kg級スナッチで飯田高校の山下選手、同じく女子64kg級で飯田高校の中島選手、水泳の男子高飛び込みで小松大谷高校の二羽選手が優勝したほか、相撲の男子個人で金沢学院大学附属高校の大森選手、同じく男子個人100kg級で飯田高校の坂東選手、ウエイトリフティングの男子102kg 超級クリーン&ジャークで飯田高校の高井選手、水泳の女子800m自由形で金沢高校の中池選手、レスリングの女子50kg級で志賀高校の岡田選手が準優勝しております。また、石川県で開催された4競技においては、能登町で開催された男子ソフトテニスのダブルスにおいて、能登高校の辻花・松本組、金沢市で開催された剣道の男子個人において、金沢桜丘高校の指本選手が3位入賞しております。その他の入賞につきましては、表のとおり、個人と団体を合わせた全体の入賞数は50であり、今年度より、女子ウエイトリフティング、女子レスリング、女子自転車、相撲個人体重別がインターハイ種目に加わり、令和元年度より入賞数が増えています。

17ページをご覧ください。2の「全国高等学校選手権大会」は、3県において、8月7日から18日までの期間で開催され、本県より3競技48名が出場しました。団体では、トランポリン男子で星稜高校、同じく女子で金沢学院大学附属高校が優勝したほか、トランポリン男子の金沢学院大学附属高校、同じく女子の星稜高校が準優勝しております。個人では、トランポリンの男子シンクロナイズドで星稜高校の美田・都竹組、同じく女子シンクロナイズドで金沢学院大学附属高校の田中・櫻井組、同じく女子個人で金沢学院大学附属高校の田中選手が優勝しました。また、トランポリンの男子シンクロナイズドで金沢学院大学附属高校の針生・松本組、同じく女子シンクロナイズドで金沢学院大学附属高校の石坂・播磨組、同じく女子個人で星稜高校の澤田選手がそれぞれ準優勝しました。その他の入賞につきましては、表のとおりであり、全体の入賞数は20でありました。

3の「全国高等学校定時制通信制体育大会」は、4都県において、8月4日から25日までの期間で開催され、本県より5競技に選手39名が出場しました。団体で、バドミントン男子で金沢中央高校が準優勝しております。その他の入賞につきましては、表のとおりであり、全体の入賞数は4でありました。

以上の3つの全国大会における入賞総数につきましては、17ページ下の表のとおりであり、団体の入賞数が増え、入賞総数は74であります。

今後も、県高体連はもとより、競技団体を含む関係部局との連携を深め、より一層効率的・効果的な運営により、引き続き運動部活動の充実に努めてまいりたいと考えております。

【質疑】

質疑無し

・ 閉会宣言

徳田教育長が閉会を告げる。